

人道支援に立ち上がる

人間が引き起こした危機であろうと、自然災害であろうと、ユニセフは影響を受けた子どもすべてに支援を届けるため現場で活動しています。

2013年、ユニセフは、人道危機により困難な状況に陥った子どもたちとその家族に支援物資を届けるため、最も危険といえる多くの場所で活動しました。多数の難題に直面しましたが、パートナー機関と共に、世界83カ国にわたり様々な規模で発生した289の人道危機に対応しました。

2013年は3つの人道危機がトップニュースを独占しました。中央アフリカ共和国とシリアで発生した武力紛争。この紛争の影響は近隣諸国にも及びました。そして、フィリピンを襲った台風ハイエン。こうした中、人々の注目を浴びることがなかった、あるいは注目度が少ない慢性的な危機が数多くありました。アフガニスタン、コロンビア、スーダンのダルフル地方、コンゴ民主共和国、マリ、ミャンマー、ソマリア、パレスチナ、南スーダン、そしてイエメンでの出来事が数百万という人々に影響を与え続けました。

台風などの事象は、ある程度予測することができます。こうした緊急事態において、早急かつ継続的に対応するには、あらかじめ十分な準備が必要であることをユニセフは認識しています。さらに、子どもたちとその家族、コミュニティがショックを乗り越え、気候変動に適応できるようにするには、人々の立ち直る力（レジリエンス）を支えなければならないことも理解しています。例えばフィリピンでは、台風ハイエンの被害に伴う支援活動の中に、災害に対して耐久性のある、より優れた建物の利用促進を組み入れました。さらに、太陽光発電の冷蔵庫などの技術を導入してコールドチェーン（適切な温度を保ちながらワクチンを輸送する物流システムのこと）を復旧し、さらには配管設備を改善して給水システムを強化しました。

人道支援活動では、革新的な方法で人々のニーズを探り、支援サービスを届け、成果をモニタリングする必要があります。ユニセフがマリで行った支援活動では、困難に陥っている人々に対して必要不可欠なサービスが提供され続けたかを評価する第三者モニタリングを支援しました。中央アフリカ共和国では、国内の様々な地域に移動チームを派遣して、被災した人々へのサービス復旧を支援しました。

複雑化する人道危機

世界では多くの国々が長期化する暴力とそこから生まれる忘れがたい痛みに苦しみ続けています。ユニセフは2013年、アフガニスタン、中央アフリカ共和国、チャド、コロンビア、コンゴ民主共和国、マリ、ミャンマー、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、ソマリア、パレスチナ、シリア、ウガンダ、イエメン



ヨルダンにあるシリア難民のためのザータリキャンプで、生徒たちの課題を見直す先生。この学校はユニセフが支援している。2013年、ユニセフとパートナー機関は、シリアの子どもたち210万人と近隣諸国の子どもたち66万8,000人の教育を支援した。
© UNICEF/NYHQ2013-0563/Noorani

で人道支援を行いました。12月に南スーダンで勃発した紛争の影響を受けた女性と子どもたちも支援しています。

シリアで紛争が始まって3年。120万人の子どもたちを含め数百万という人々が難民となってエジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコへと逃れました。この人道危機に伴い、ユニセフは安全な飲み水、保健サービス、教育を受ける機会、心理社会的ケアをシリア国内の子どもたちと近隣諸国の子どもたちに提供しました。(21ページの「シリア紛争で被災した子どもたち」を参照)

2013年4月、ユニセフ事務局長は、国連人道問題調整事務所(OCHA)・国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)・世界食糧計画(WFP)・世界保健機関(WHO)の代表らと共に、シリアでの紛争を終わらせるよう強く訴えました。

シリアの子どもたちがよりよい未来への希望を失いそうになっていることを受けて、ユニセフは紛争の影響を受けたすべての国々の教育省庁をはじめ、支援者、UNHCR、マーシーコープ(Mercy Corps)、セーブ・ザ・チルドレン、ワールド・ビジョンといったパートナー機関と共に、「失われた世代にしないために(No Lost Generation)」イニシアティブを立ち上げました。このイニシアティブでは、まず、その目標を支持するステークホルダー(利害関係者)たちを動員し、資金を確保。ハイレベルな人々へのアドボカシー(政策提言)を目指すこととしました。イニシアティブの目標は、シリアの子どもたちが将来、祖国を再建し平和をもたらす環境の構築に貢献できるように、教育、保護された環境、その他様々な機会へのアクセスを確保することにあります。

2013年は、このイニシアティブにより、シリア国内の210万人の子どもたちと近隣諸国に逃れた66万8,000

人の子どもたちに教育支援を届けることができました。シリア国内のパートナー機関も、今回の危機により影響を受けた150万人の子どもたちに学用品を届け、31万人の子どもたちに補習授業を行いました。

中央アフリカ共和国では、2013年に状況が悪化し、人道危機としても、保護支援を必要とする危機としても最大のものとなりました。同国の総人口460万人(うち半数は子ども)が直接的・間接的な影響を受けました。子どもたちは避難を余儀なくされ、親と離ればなれになったり、障がいを負い身体が不自由になったり、誘拐されたり、殺されたり、レイプの被害にも遭っています。ジェンダーに起因する暴力が増え、軍隊や武装勢力、民兵に動員される子ども数も増加しました。現在、推定6,000人もの子どもたちが徴用されていると推測されています。教育の機会が奪われ、基礎サービスが不足しています。食料不足によって状況はさらに悪化し、栄養不良に瀕する子どもたちが増えています。12月初めには、首都バンギで戦闘が激化し、この町の人口の最大25%が避難を余儀なくされました。その数日後、ユニセフは「レベル3」の人道危機を発令し、追加要員を派遣しました。この「レベル3」とは、組織的な動員を要する突発的な危機、または複雑な人道危機が続き、事態が急速に大きく悪化するような危機としてユニセフが指定するものです。ユニセフは、パートナー機関と共に、緊急医薬品と安全な飲み水をはじめ、総合的な保健ケア・教育・心理社会的ケアを提供しました。

2013年、マリは徐々に安定化に向かいました。フランス軍と国連平和維持部隊が北部での治安を強化し、9月に新政権が発足したためです。しかし、特に北部を中心として、状況は依然として不安定です。2013年末の時点で、国内外で推定38万6,000人が避難を余儀なくされ



ソマリアでは、1,100人近い子どもたちが社会への再統合プログラムに登録されました。その多くは、以前、武装勢力やグループに動員されていました。

ました。こうした中、ユニセフは栄養調査と国レベルの栄養計画の策定を支援し、12万5,700人以上の5歳未満児に重度の急性栄養不良の治療を行いました。これにより87%の子どもたちが回復しました。5月にはコレラが発生しましたが、ユニセフがマリ政府を支援し資源を動員、浄水剤、衛生キット、その他予防に必要な衛生資材を提供し、数週間うちに感染拡大を防止することに成功しました。約80万人の人々が塩素消毒された水を利用できるようになりました。

ユニセフはパートナー機関と協働して、安全保障理事会決議1612号（2005年採択）に定める通り、武力紛争下での子どもの権利に対する6つの重大な侵害行為を監視・報告する仕組みを確立しました。さらに、紛争の影響を受けた子どもたちとジェンダーに起因する暴力を受けた人々（サバイバー）を支援しました。マリでは、同国の国家教育省を支援して、2013年から2014年にかけての学年度に「学校へ戻ろう（Back to School）」キャンペーンを展開し、80万人の子どもたちに学校へ通うよう、または学校へ戻るよう呼びかけました。キャンペーン開始時の10月には、

同国の首相と国家教育省をはじめ、パートナー機関と共に「平和が戻った、そして学校も（Peace is back and so is school）」をスローガンとして掲げました。

政治・経済・治安面で変遷期にあるアフガニスタンでは、ユニセフは2013年、地域レベルの緊急対策の策定に力を入れました。これはユニセフ独自で、あるいは、他の国連機関と合同で行っていました。この取り組みによって、ユニセフとパートナー機関は、アフガニスタンで起こり得る問題に対して、十分対処できることになります。

自然災害

ユニセフは2013年、多くの自然災害に対応しました。中国とタジキスタンで発生した地震の他、フィリピンを襲った地震と巨大台風、カンボジアや朝鮮民主主義人民共和国、ネパールで発生した洪水が挙げられますが、これらは一部に過ぎません。

11月8日、台風ハイエンがフィリピンに大打撃を与えました。観測史上最大の台風の一つとされるこの台風は、1,400万人に影響を与え、うち590万人が子どもでした。数千人が負傷、または命を失い、行方不明となりました。家を失った子どもたちは170万人に上ります。食料・飲み水・保健ケア・学校教育といった基礎サービスが断ち切られました。この台風に襲われる直前の9月には、サンボアンガ市内で武力紛争が発生し、200人が亡くなり、1万戸以上の家々が破壊され、12万人を越す人々が避難を余儀なくされました。翌10月にはマグニチュード7.2の地震がボホール州を襲いました。ユニセフは、台風ハイエンの被災後、1週間以内に、タクロバン市内の20万人以上の人々に水を供給するため給水システムの復旧を支援しました。



マリのバマコにて、洪水が少し引いた後で歩行者用の橋を渡る女性3人。
© UNICEF/NYHQ2013-0925/Bindra

シリア紛争で被災した子どもたち

国内と国境を越えた影響

2013 年末の時点で、すでに 550 万人の子どもたちがシリア紛争の影響を受けています。戦闘が激化する中、子どもたちが純粋さと希望を知らずして育ち、「失われた世代」になりかねない危機に瀕しています。この紛争が始まって3 年が過ぎました。シリア国内では 930 万人が影響を受け、2013 年末までに 236 万人が近隣諸国に流出しました。

シリア国内では、子どもたちが日々、戦争の恐怖にさらされています。こうした子どもたちの多くが手の届かない場所、人道支援が届かない場所におり、緊急支援を必要としています。この紛争で水の供給システムが大きな打撃を受け、保健ケアを提供するシステムも崩壊。多くの学校が機能していません。2013 年の 11 月には野生株ポリオウイルスが 17 例確認されました。シリアでの発生は 1999 年以来初めてのことで、

エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコに逃れることができた子どもたちは今、精神的ストレスを受けています。こうした子どもたちの中には保護者のいない子どももいます。祖国で銃弾にさらされる危険からは逃れたものの、新たな問題に直面している子どもたち。2013 年末の時点で、難民となった学齢期の子どもたちのうち、60%を上回る子どもが就学していません。こうした傾向は、特に難民キャンプ以外の場所に住んでいる子どもたちに多く見られ、ただでさえ困難な立場にある子どもたちが、幼くして結婚させられる、労働力として仕事をさせられるといったさらなる危機に瀕しています。

イラク、ヨルダン、トルコの難民キャンプで暮らす人々は全体の 20%です。一方、ほとんどの人々はホスト・コミュニティ（親類縁者や知り合いの家など）で生活しています。そのため、難民キャンプで暮らす人たちよりも劣悪な環境の中、あるいは急ごしらえの寝場所で暮らしていることが

ユニセフは 12 月末までに、75 万人を超える人々が安全な飲み水を利用できるよう、また、便器の提供と簡易トイレの設置を通して、推定 5 万人の人々が衛生設備を利用できるよう支援しました。さらに、26 万人以上の被災者へ衛生用品と衛生に関する注意事項を提供する支援も行いました。

一方中国では、4 月 20 日に発生したマグニチュード 7.0 の地震によって四川省が被害を受け、約 200 人が亡くなり、1 万 4,785 人が負傷しました。この惨事に対応するため、

多く、病気にかかる危険性も高まっています。難民の流入は、そうした受け入れ国ですでに低下しつつあるサービスやシステムへの大きな負担となっています。ヨルダンでは、もとも水の供給が難しい状態の中で、さらなる負担がかかっています。レバノンでは、保健ケアの費用が増加し、学校の教室は生徒であふれかえっています。トルコでは、保健サービスの現場が、流入した難民の対応に追われています。

2013 年、ユニセフとパートナー機関は、紛争の影響を受けたすべての国々で人道支援を行いました。シリア国内では、14 の行政区域すべてにおいて、100 万人を超える子どもたちのために学習資材・教材を支給しました。水を介して広がる病気への感染を防ぎ、清潔な水を継続して利用できるようにするため、赤十字国際委員会と協力して水の塩素消毒を行い、1,000 万人の人々が清潔な飲み水を利用できるようにしました。また、厳しい冬から子どもたちを守るため、保温ブランケット約 100 万枚、冬用衣類 16 万 3,000 セットを含む冬用物資を 200 万人の子どもたちに提供しました。

ユニセフはさらに、シリアからの難民を受け入れている国々において、26 万 7,000 人を超える子どもたちが教育を受け、学習プログラムを利用できるよう支援しました。また、38 万 8,000 人を超える難民の子どもたちに心のケアも提供しています。シリア国内を含む周辺地域の 2,400 万人を超える子どもたちのためにポリオのワクチンを提供しました。

こうした取り組みを大規模に行っても、それは子どもたちとその家族が抱えるたくさんのニーズのほんの一部を満たすに過ぎません。被災した子どもたちの生活に欠かせない基礎サービスを届け、今も続く惨事と混乱の中で子どもたちの権利を守るためには、今こそさらなる行動が必要なのです。

ユニセフは基本的な産科・新生児ケアに欠かせない医療機器を病院に提供し、1,200 人の村の医師らに妊産婦と子どもの保健に関する研修を実施。これにより、2 万 1,000 人の妊産婦と 11 万 5,000 人の幼い子どもたちへのケアを改善することができました。現地の疾病管理センターには水質検査キットを支給し、トイレも設置しました。また、子どもと女性のための国家作業委員会と協働して、子どもにやさしい空間として既存の場所を再度利用できるようにした他、新しい場所も設置しました。こうして子どもたちと保護者それぞれ 9,700 人と 4,900 人を超える人たちに心理社



コロンビアでは、約2万9,000人（うち半数は子ども）が地雷教育プログラムに参加しました。

会的ケア、幼児開発サービス、保護サービスを提供することができました。

中央アジアで最も貧しい国の一つ、タジキスタン。この国でも自然災害は珍しくありません。毎年、地震・洪水・土砂崩れといった自然の力を目の当たりにしています。ほとんどの災害は小規模で、発生もごく一部の地域に限られていますが、その土地に住む子どもたちとコミュニティにとっては辛く悲しい出来事です。11月10日、マグニチュード5.2の地震がイヴォン地区を襲いました。100戸を超す家々が倒壊。学校と保健施設それぞれ2カ所が被災しました。この事態にユニセフは迅速に対応し、学校用テント、教材、レクリエーション・キット、貯水タンクを提供しました。これにより、子どもたちには教育が、家族には基礎サービスが確保されました。教育システムに立ち直る力（レジリエンス）をつけ、緊急時に備えた体制をとれるよう、教育プログラムの中に災害時のリスクを削減できるような要素を組み込み、約5,800人の子どもたちが直接的な恩恵を受

けられるようにしました。

2013年、ハイチは、報告された中でも最大規模のコレラ感染に見舞われました。ユニセフはハイチ政府と協力して、約35万人の人々にコレラ予防キットを支給。NGO団体とも協働して55万人を超える人々にコレラに関する指導を行い、各地の保健センターに4,120個の迅速診断キットを提供しました。コレラ発生に伴うハイチでの活動の一環として、ユニセフはハイチ政府とNGO団体に医療用テントを寄付しました。また、同じくハイチ政府と、さらにはパートナーであるNGOに83万米ドル相当の支援物資を提供しました。コレラのリスクが高い地域では、約10万2,200人にワクチンを接種し、水源を修復。20万人を収容する203カ所の避難キャンプでは、衛生設備（トイレ）の改善を行いました。ハイチは台風に襲われる危険性が高いため、ユニセフは、緊急時への準備体制と災害時のリスク削減に資金を投入するよう、引き続き政策提言を行っています。

栄養

飢餓の原因には様々なものがあり、食料不足は、多くの場合、武力紛争・自然災害・貧困が引き金となります。その一例がアフリカのサヘル地域です。この地域では継続する暴力行為、干ばつ、洪水、HIV／エイズ、慢性的な貧困が、栄養不良を深刻化させています。そのため、この地域の子どもたちは急性・慢性の栄養不良の危機にあります。コミュニティの人たちがこうした脅威に対処できるよう、予防策・対応策を講じる必要があります。2013年、サヘル地域の9カ国で重度の栄養不良に陥っている5歳未満児100万人以上が治療を受けました。ユニセフの支援により、2カ所の地域拠点からは、栄養危機に対する包括的な対策として、220万米ドルを上回る額の緊急支援物資が提供されました。さらに、西アフリカ諸国経済共同体（Economic Community of West African States）と緊密に連携して「西アフリカ栄養能力開発イニシアティブ（West Africa Nutrition Capacity Development Initiative）」を立ち上げました。サヘル地域全体にわたり資格を持つ栄養専門家が構造的に不足している問題に対処するためです。



モンゴル。微量栄養素パウダーを食べ物にふりかけて混ぜる保健員を、母親の膝の上で見つめる少女。子どもの成長に必要なビタミンやミネラルを含む微量栄養素パウダーは、低価格な上、離乳食の質の向上に最適であり、鉄分不足や鉄欠乏性貧血の予防に非常に効果的である。
© UNICEF/NYHQ2012-1792/Sokal



中央アフリカ共和国、バングの臨時予防接種施設で、はしかの予防接種を受ける少女。近年の紛争により、保健サービスが崩壊し、何十万もの子どもたちが病気の危機にさらされている。
© UNICEF/NYHQ2013-0287/Matas

モーリタニアでは、ユニセフが支援する栄養活動の一環として、5歳未満児1万6,000人が、422カ所の栄養センターで重度の急性栄養不良の治療を受けました。ユニセフはまた、急性栄養不良に対するコミュニティレベルでの管理を拡大支援した他、国レベルの保健情報システム開発を推進するために、栄養調査や国家栄養計画の策定も支援しました。モーリタニアでは、マリから流入する難民のために食料不足が深刻化したため、4,233人の子どもたちの急性栄養不良を治療し、2万6,721人の子どもたちにはしかの予防接種を支援しました。これはモーリタニア政府ならびに国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と協働して実施したものです。2回の栄養調査によれば、2013年は1月から10月にかけて、一般的な急性栄養不良が13.2%から11.8%へ、重度の急性栄養不良が3.2%から1.4%に減少しました。

2013年、アンゴラとナミビアは過去30年間で最も深刻な干ばつに見舞われました。アンゴラでの状況は悲惨を極め、現在150万人が食料不足に苦しんでいます。作物の収穫高が低く、不衛生な飲み水を使っているために、栄養危機が起きています。この影響が最も深刻に現れるのは5歳未満の子どもたちです。そのためユニセフは、急性栄養不良の包括的管理をこれまでにない規模で拡充できるようにアンゴラ政府を支援しました。この活動により、34の新規入院施設と473の新規外来診療センターが開設されました。また、栄養不良児を探し出すために、100万人以上の子どもたちにスクリーニングが行われ、その結果、5万9,000人以上が重度の急性栄養不良の治療を、約6万

5,500人の子どもたちが中程度の急性栄養不良の治療を受けました。

ナミビアはサハラ以南のアフリカの中でも最も干ばつがひどい国です。この国では2013年の4月時点で、総人口の約3分の1に相当する78万人が食料不足に苦しんでいます。ユニセフが行った技術面・資金面での支援により、ナミビアで最も深刻な影響を受けている地域のうち7地域に住む世帯に、安全な水と衛生設備（トイレ）を提供し、衛生状態を改善するための実践方法も指導しました。また、女性と子どもたちの栄養不良を早期に発見して医師に照会ができるよう指導を行いました。さらに、11月には世界保健機関（WHO）と共にナミビア政府を支援して14地域で「妊産婦と子どもの保健週間」を実施。この活動では、妊娠中の女性と授乳中の女性には鉄分・葉酸の栄養補給剤を提供。その他子どもたちへの追加予防接種、急性栄養不良の発見、出生登録活動も行われました。



ミャンマーでは、武装勢力による子どもたちの徴募・徴用を防止するため、全国キャンペーンが始まりました。